

# 協働取組における多様な主体間交流の場づくりと環境教育・ESDの推進

田中拓弥 ((一社)コミュニケーションデザイン機構)

## I はじめに

2015年「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択  
 →環境課題の解決と同時に、経済・社会の持続性

2018年「第五次環境基本計画」での「地域循環共生圏」(地域資源を持続可能なかたちで活用し、環境・経済・社会の統合的向上を図り、農山漁村と都市をともに活かすという考え方)  
 →環境課題を含む多様な地域課題に対して、同時的な取組

多様な主体間のパートナーシップ・協働取組が一層重要に

【2013年～2017年にかけて】  
 環境省「地域活性化に向けた協働取組の加速化事業」  
 近畿地方において、環境保全・環境教育に関するさまざまな課題をテーマとした事業を6団体を実施した。  
 具体的に活動実践しながら、協働取組の体制構築に挑戦！

各々の事業における多様な主体間交流の場(以下、プラットフォームと呼ぶ)の構築と環境教育・ESDの推進の関わりを検討した。

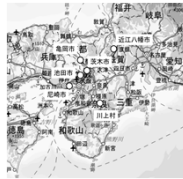
## II 方法

5年間の6団体の事業について、  
 1) 事業に関わる地域・自治体の特性、2) 団体による取組内容  
 3) 支援内容の情報を整理・分析した。

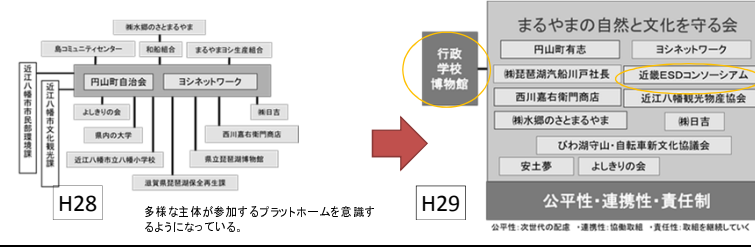
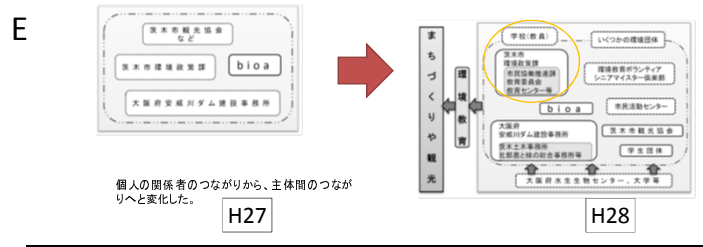
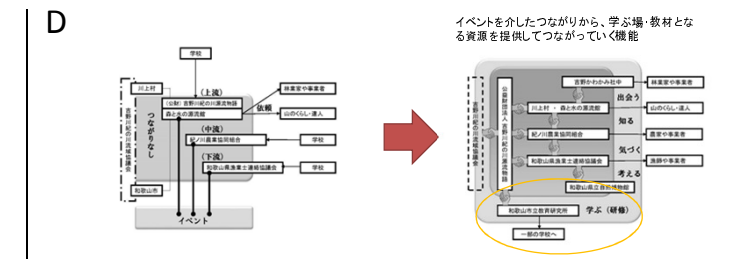
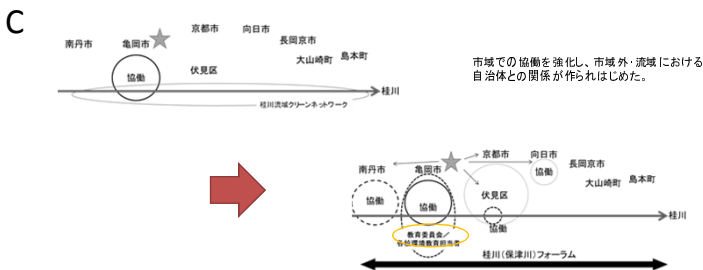
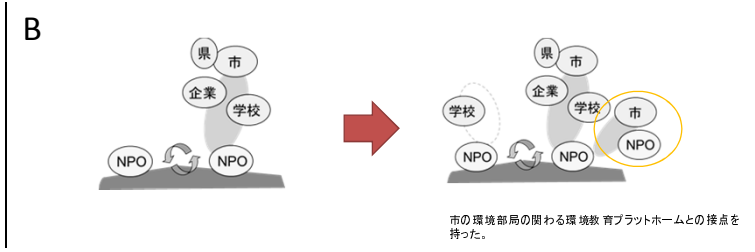
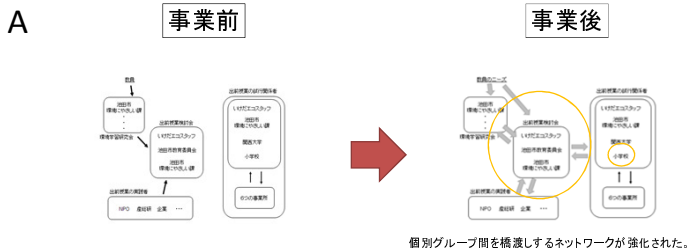
その他に、以下の資料を用いた。

- ・事業に関する公開資料
- ・団体及び関係者によるウェブ発信、公開データ、報告書等の資料
- ・支援者であった筆者による振り返りの内容
- ・団体が取り組む環境課題に関する文献資料

平成25年～29年に実施された事業の採択団体と事業名



採択団体	事業名	実施年度
A 特定非営利活動法人 いけだエコスタッフ	みんなの環境学習講座	2013年・平成25
B 特定非営利活動法人 人と自然とまちづくりと	子どもによる地域協働と海洋文化の継承	2013年・平成25
C 特定非営利活動法人 プロジェクト保津川	川と海つながり共創プロジェクト	2014年・平成26
D 公益財団法人 吉野川紀の川源流物語	紀の川(吉野川)流域における地域産業をESDの視点でいかす教材化	2015年・平成27
E bio(ピオア)	茨木市域のまちと農村をつなぐ環境教育の推進 次世代へ引き継ぐ茨木の上の環境教育の推進	2016年・平成28 2016年・平成28 2016年・平成28
F ヨシネットワーク	近江八幡山地域「ヨシの価値」掘り起こしプロジェクト	2017年・平成29



## III 結果

いずれの事業においても、従来の関係者以外の新たなメンバーが加わり、協働取組による地域課題解決を推進するためのプラットフォームが形成された。環境教育・ESDの推進におけるプラットフォームの機能は、事業内容によりさまざまであったが、自治体施策との関連性に配慮することが取組を加速させる上で必要だと考えられた。

また、学校教員による地域資源の教材化を外部から支援・補完する役割を、協働取組に関わる多様な主体が担った。支援・補完する役割を担う主体と教員のマッチングのため、中間支援的に調整する機能が求められた。プラットフォームに参加する主体が事業以前より蓄積してきた関係性がこのような調整機能を発揮する素地として重要だと考えられた。

公平性・連携性・責任制  
 公平性: 次世代の配慮・連携性: 協働取組・責任性: 取組を継続していく